

動物衛生研究所九州支所の研究の現状等

平 詔亨

家畜衛生の概況：

近隣諸国における悪性染病等#1)の異常発生から時間が経過しており、一時のような水際作戦と発生予防の緊急体制からやや開放されている。しかしながら、海外悪性伝染病等の進入の危険は常にあり、特に九州管内は地理的に重要な位置にある。一方、牛の異常産やヨーネ病の国内常在病の発生は増加しており、牛・豚の肺炎、下痢等主徴とする伝染病、監視伝染病の発生は、増加傾向にある。また、家畜保健衛生所等の衛生業務実行機関では、BSE等の新たな検査業務のため、多くの時間を費やすことを余儀なくされている。

特記すべきことは、家畜等の動物を介した「新しい人(獣共通)伝染病」#2)が世界的な脅威を引き起こし、一部終息傾向はあるものの、変異株の出現等を含めて未解決な点が多く、動衛研を主とする獣医学におけるこれまでの基礎研究が今、大きく貢献しつつあることである。家畜でも人でも、常に新しい伝染病の発生が懸念されている。

#1) FMD, 豚コレラ、#2)ウエストナイル熱、重症急性呼吸器症候群(SARS)、家禽ペスト(流感)、BSE

地域対応・疾病発生に係わる情報交換の場：

1. 九州・山口沖縄家畜病性鑑定研修協議会(6月、支所)
2. 九州・山口・沖縄病理事例研修検討会(7月、支所病理)
3. 家畜衛生業績発表会九州ブロック大会(10-1月、各県発表会)
4. 九州・沖縄・山口ブロック家畜衛生主任者会議(8月、各県持ち回り)
5. 九州地区獣医師大会・(日本獣医三学会<九州>)(10月、各県持ち回り)
6. 病性鑑定件数：1,158支所/4,912本所(24%)
7. 研修生(家畜保健衛生所3、大学1)

動衛研九州支所の概況：(研究職9、研究補助職1、事務職4、技術職6、非常勤3人、計23人)

動衛研は、健全な畜産物の生産阻害要因である家畜疾病についての試験研究を行っている。九州支所は、西南暖地および亜熱帯地域における病気の診断と予防法の開発・研究を担っている。

(研究課題) 課題名、予算区分、実施年度：

上席研究官室

1. 家畜由来 *Campylobacter hyointestinalis* の血清型と病原性に関する研究、交付金、2003～2005

臨床細菌研究室

1. *Actinobacillus pleuropneumoniae* の各種病原因子の遺伝子型解析、交付金、2002～

2004

2. 組み換え鞭毛蛋白を用いた馬パラチルス血清診断法の開発に関する基礎研究、交付金（交流共同）、2003～2005

臨床ウイルス研究室

1. アルボウイルス感染症の分子疫学的解析による流行動態の解明、交付金、2001～2003
2. 越境性疾病媒介節足動物の生態と媒介能に関する研究、緊急問題対応型（口蹄疫）、2001～2003
3. ウイルス感染による胎子の形態形成阻害機構の解明、形態生理、2001～2003
4. 酵素免疫測定法（ELISA）によるアカバネウイルス抗体検出法の開発、委託、2001～2003

臨床病理研究室

1. 細胞・組織内における牛異常産ウイルス遺伝子検出法の確立、交付金、2002～2004
2. 体細胞クローン牛胎子および胎盤における病理学的研究、体細胞クローン、2002～2005

その他

支所の広報活動：支所ホームページ <http://niah.naro.affrc.go.jp/sat/> アクセス2000人/月

以上